

## なぜロシアの熊は、常に恐ろしいものになっているのか？

<https://stateofthenation.co/?p=114145>

May 1, 2022 SOTN

なぜなら、地上のどんな他の国も、ロシアのように、サタンのシオニスト-アングロ-アメリカン枢軸を脅かして、音をあげさせることができないからである。——これがその理由だ！

本当の物語——多くの興味あり、並行して存在する裏話で、ロシアと、伝統的な西側諸国（現在、シオニスト-アングロ-アメリカン枢軸と呼ばれる）の対立する、長い複雑な歴史を説明する物語——は、下にあげられた 16 の主要なポイントに要約することができる。

これら 16 のポイントには、1914 年の帝政ロシアの、次のマップに間接的に例証されている、共通の筋道が見えている。このマップの地理的・地政学的にもつ意味は、何世紀もの間、西洋文明を支配してきた、深く浸透する「恐露病」Russophobia を、目に見えて明らかにするものである。それはまた、西側の権力エリートによる、盗癖のような、組織的に作られた**恐露病**が、すべてロシアの土地、天然資源、工業能力、奴隷労働力、テクノロジー、その他を手に入れ、彼らが手を付けることのできる富と財を、盗むことにかかわるものであることを、明瞭に示している。



**キーポイント：**どんな国家も、所有地の面積が大きいほど、それが防衛しなければならない国境線が長くなる。戦争屋の国々は、常に、どこの国民国家が征服可能であるかを知っている。彼らの異常な貪欲さは、特に、天然資源が豊かで、広大な領域を持つ国家を狙って行動させる。まず彼らは、略奪し強姦する、あらゆる種類の戦争屋盗賊どもを送り込み、どれくらいの略奪までが許されるかを試そうとして、渴望する土地を強奪するだろう。次に彼らは、あらゆる種類のニセ旗攻撃と、特殊作戦を試み、犠牲になった国家が、軍事的に動き出すように誘発するだろう。

それは、ゼレンスキーのナチ政府が、今日、ウクライナでやっており、無数の市民たちが、キエフに命令された AFU (アゾフ部隊) によって、無慈悲に殺され、ロシアが代わって犯人にされるのと同じである。このようにして主流メディアは、シオニスト-アングロ-アメリカン枢軸を通じて、世界中に、強烈な**恐露病**を植え付けるのに用いられ、これが、ロシア連邦に対する世界大戦の呼びかけへと、巧みにつながっていく。この同じ欺瞞の戦術手帳が西洋諸国で用いられ、第2 ミレニアムと、そして今は第3 ミレニアムを通じて、大小の無防備の国家が搾取されてきた。今日、その主たる標的がロシアである。

上のマップは、歴史に記録されている、3 番目に大きな帝国——ロシア帝国が、20 世紀の2 度目の 10 年間に、どのように存在したかを示したものである。それは第一次大戦が、シオニスト-アングロ-アメリカン枢軸によって起こされた年であり、西洋の強国が陰謀によって、1917 年のボルシェビキ革命を導いた、3 年前のことである。これを予言するように、これらの地球を揺るがせた出来事は、両方とも、1913 年の、違憲の連邦準備銀行法が、アメリカ議会を不法に通過した直後に起こっている。

ここに、ロシア人民にとって問題の核心が横たわっている。すなわち、このような大きな国家——カナダ、中国、アメリカの倍近く、地上の 3 番目の大国であるロシアを、防衛しようとするなら、それは、強力な軍事国家で、テロリスト集団でもあるものの侵略/侵攻/攻撃を、必然的に招くだろうということである。

## 実行の概略図

少なくとも 16 の大きな歴史的出来事 —地政学的な力学/グローバルな陰謀/国際的な画策—があり、それらがロシアを、米・英・連合アラブ・EU・NATO テロ-グループの、今日の目標として選んでおり、これはしばしば、過去において、1400 年以上も続いて存在した。

### (1) ハザール王国 vs. ルーシ (ロシア) 民族

(注)「信じられない悪の集団…」等、連続翻訳が数篇ある

- (2) **The Great Schism of 1054** (1054 年大分裂)
- (3) モンゴル帝国が南ロシアを吸収
- (4) 大英帝国の始めた **Great Game**
- (5) ヴァチカンのイエズス会 vs. ロシア正教会
- (6) プロメテウス戦略と Intermarium
- (7) 1914 年に始まった一次大戦が、1917 年のロシア革命の舞台を設定した
- (8) ポリシェビキ革命は、ロンドン、フランクフルト、NY 市がきっかけとなった
- (9) 二次大戦は、ナチス・ドイツを通じて、ロシアを征服すべく工作された
- (10) 冷戦：ポスト二次大戦、英国に刺激された、冷たい三次大戦「相」
- (11) ユダヤ人寡頭政治；資産を剥がす、ロシアのポスト・ソ連邦
- (12) 恐露病が、アメリカのネオコンとネオ・リベラルによって、世界中に輸出される
- (13) 拡大イスラエル計画：シオニスト・イスラエル-対-ロシア連邦
- (14) アングロ-アメリカン枢軸-対-ロシアに導かれた BRICKS 連盟
- (15) 2022 ウクライナ戦争は、米-英-アラブ-EU-NATO テロ・グループによって、ロシアを弱めるために挑発された
- (16) 英米の画策が、最初、ロシアと EU の東欧加盟国の間で地域戦争を演じ、次に、ロシアと NATO の間、最終的に、BRICKS プラス地球の南部と西洋強国プラス「シオニスト-アングロ-アメリカン枢軸」の間で演じられた。

## 結論

あなたがそれをどう見ようと、それは醜い、**実に醜いものになっていく！**このウクライナ戦争は、ネオコン・シオニスト戦争屋が、全面的な第三次大戦を引き起こすのに、完全な引火点になっている。それは彼らの最も効果的な、恒常的な **Ordo ab Chao** (混沌から秩序へ) 戦略の、最高の潜在能力を産み出す方法であり、それによって「グレート・リセット」が展開され、彼らの New World Order アジェンダが実行される。第一次大戦が国際**連盟**を作り、第二次大戦が国際**連合**を作ったように、NWO グローバリスト陰謀団は、第三次大戦から **One World Government** を形成するための、最高の戦後環境を作ることを狙っている。

NATO は今、代理を使ってロシア内部の町を爆撃している。シオニスト-アングロ-アメリカン枢軸は、ほとんど毎日、ロシア中でテロ行為を行っている。ウクライナ軍とアゾフ大隊ナチスは、彼らを殺しても罪にならないと考える所ではどこでも、ロシア語を話す人々を無慈悲に殺している。イギリスは鉄面皮にも、ロシア内部での戦争を要求し、EU 諸国を威嚇して、ウクライナを完全に武装させよと言っている。もちろんバイデン政権は、あ

らゆる機会を利用して、ウクライナ戦争を大きく燃え上がらせ、最近、キエフの新しい軍事援助のための 330 億ドルを要求しながら、外交解決を妨げようとしている。

**要約：**事態はますます悪化する一方であり、一週ごとに挑発が大きくなり、双方でのひどく間違った計算に伴って、リスクが甚だしくなっており、核攻撃の脅威がより真剣なものになっている。

最終的に、この全面的世界戦争に向かう下降スパイラルを、停止させるものは、神の介入しかないように思われる。したがって、あらゆる人々に、この大きく近づいた地球の破局を避けるために、**より高い力**への祈りをお願いしたい。

しかし、常に、背後で動いている、ある明らかな可能性がある：**より高い力は、プーチンの（不安定な）ロシア版のリベラリズムを用いて、米英の覇権帝国主義の時代を終わらせる一撃を、用意しておられるのだろうか？** <https://stateofthenation.co/?p=114380>

### 〔訳者 Greatchain 注〕

まず、5/4 掲載分の記事とともに、これを読んでみていただきたい。出所は別だが、観点は共通している。SOTN を読んだことのない人は、一度これを開くだけでも開いてみて、この人がどれくらい重厚な論文（論説）を精力的に書き続け、的確な忠告をしているかを知っていただきたい。いわゆる「グローバリスト」とは、どういう歴史的素性の者たちなのか？ これがわからなければ、この危機を論ずることはできない。私はたまにしか、これを翻訳紹介しないが、これは、その膨大さに圧倒され、余裕も能力もないからにすぎない。

そこで、日本を代表して、一方的にプーチンとロシアを糾弾するだけの人々は、まずこの危険の高まった一触即発の時期に、言葉遣いに気を付けるべきだと思う。「居丈高」というようにしか響かない物言いは、ロシア語に訳しても英語に訳しても、非常に恐ろしく響くであろう。「こうするより行動の選択がなかった、事情を察してくれ」と言っている人たちに、バイデンと同じような言い方はできないし、すべきではない。ドイツの首相もフランスの首相も、それは心得ているように思える。

この最後に言われている「神の介入」divine intervention や祈りについて——これは実際に起こりうることであって、David Wilcock などは、その実例をいくつか説明している（グローバリストの地下居住地の不可解な爆破や、核兵器の無力化（neutralization）

など)。これを大きな声で言う人はあまりいないが、そのような観点は重大である。我々は愚かな無神論者の立場を、もう卒業しなければならない。